



学校だより9月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年 8月31日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目 16番1

TEL 045(841)6561

体全体で感じる感覚を大切に、学びを深める

校長 岡崎 陽子

子どもたちの明るい声が、学校に戻ってきました。今年の夏休みは、行動制限がなかったので子どもたちの行動範囲も広がったのではないかと思います。しかしながら新型コロナウイルス感染症と熱中症の両方に気を付けながら過ごすことは、困難なこともあったのではないかと想像されます。残暑と長期休み明けで体調を崩しやすいときですが、乗り越えて元気に過ごせるよう願っています。

コロナ禍ですが、学校では6月から7月にかけて3年ぶりに水泳学習を実施することができました。学校のプールに入ることが初めての子どもたちが多かったので、最初は緊張した面持ちで水のシャワーにも顔をしかめていましたが、すぐに慣れ、笑顔で水に親しむ様子が多く見られるようになりました。保護者の皆様には水泳用具の準備や健康観察等にご協力いただきありがとうございました。

今は、身近に室内プール施設が増え、水に親しむ機会も1年中ありますが、私が小学生の頃は、身近な施設は学校のプールと地域の公園プールでした。浮き輪を使って公園プールで遊んでいるときは楽しかったのですが、学校の水泳授業は、泳ぐ時の息継ぎが思うようにできず、公園プールほどの楽しさを感じませんでした。

ところが、小学校の高学年になって学校や地域が主催する夏季水泳教室に参加したことをきっかけに泳ぐことが楽しくなりました。クロールで泳いでいると、息継ぎをする瞬間に水の中と外の境目が見えることに気が付き、二つの世界を同時に見ている感覚が面白いと思いました。潜水して水面に上がってくる時は、水の中から日光に揺らめく水面が見え、感動しました。水の中で体の力を抜くと、ふわりと浮いている感覚を初めて味わうことができたのも小学生のときでした。

現行の学習指導要領には「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成を目指すことが示されています。ICT（情報通信技術）を活用することで実際には見ることでできないものでも映像を通して簡単に見ることができるようになり、「知識及び技能」の育成に役立っていると実感すると共に、体全体で感じる感覚の大切さにも気付かされます。

例えば、水泳学習で得た水の感覚は、「知識及び技能」の定着の一助になりますが、水の心地よさ、水面の美しさ、日光の眩しさなど、感性にも働きかけてくれます。そのような自分の感覚を通して得たことを自分の言葉で語ることは「思考力、判断力、表現力等」を育成することにも繋がると考えます。

6年生の国語科では宮沢賢治の「やまなし」を学習します。これは川底で暮らすかきの親子の様子を幻想的に描いた作品ですが、子どもたちは文章の叙述に即して読み、自分の感覚を通して「やまなし」の世界を想像していきます。自分が水の中から見た日光に揺らめく水面を、かきの子どもらも同じように見ていたのではないかなどと、自分の言葉で語ることは「やまなし」の世界をより実感を伴って想像することに繋がると思います。

今後の教育活動においても、子どもたちが体全体で感じた感覚を大切に、自分の言葉で語り合い、学びを深めていけるよう支援していきます。